

書籍紹介



- 著者 河野勝彦
書名 実在論の新展開 ポストモダニズムの終焉
出版社 文理閣
出版年 2020年6月25日
概要 21世紀になってこれまでのポストモダニズムに代わって実在論が新しく展開されている。本書は、その動きを、カンタン・メイヤーの思弁的唯物論、グレーム・ハーマンの対象指向存在論、マウリツィオ・フェラーリスの新実在論、マルクス・ガブリエルの「新しい実在論」を批判的に紹介するとともに、これらに先行して展開されたロイ・バスカーの超越論的実在論の立場から、「偶然性の必然性」を唱えるメイヤーの因果論に対する批判を込めて「因果的必然性とは何か」を、また、ヒューバート・ドレイファスとチャールズ・テイラーの「頑固な実在論」を批判的に評価して私自身の考える実在論のプロフィールを提示している。



- 著者 野口友康
書名 フル・インクルーシブ教育の実現にむけて — 大阪市立大空小学校の実践と今後の制度構築 —
出版社 明石書店
出版年 2020年9月4日
概要 本書は、障害をもつ子どもの通常教育への包摂をはかるフル・インクルーシブ教育（通常教育と特別支援教育との接合）の日本における実現の方途と今後の課題を、事例の提示と比較、ケイパビリティ・アプローチを援用した理論化を通して探ったものである。事例として、大阪市立大空小学校の実践を詳細に調査し、理念・組織の運営方法・地域社会との関係などを、保護者・地域住民・教職員へのインタビューを通して明らかにし、その重層的な構造を分析した。そして、その事例とカナダ・オンタリオ州ハミルトンのフル・インクルーシブ教育との比較検討を行った。また、障害者の脆弱性が露呈した東日本大震災の事例を「人間の安全保障」の視点から捉え、フル・インクルーシブ教育の重要性を考察した。



監修 古沢広祐

書名 (新しい環境問題 シリーズ全4巻) 『食品ロス』『マイクロプラスチック』『生物多様性』『エシカル消費』

出版社 金の星社

出版年 2021年2月・3月刊行

概要 小学校高学年からを対象とした、写真イラストによる分かりやすい解説書。持続的な社会を考えるための新しい環境問題シリーズ(図巻、全4巻)A4変型判です。近年、よく話題にのぼる〈環境〉についての4ワード、「食品ロス」「マイクロプラスチック」「生物多様性」「エシカル消費」をわかりやすく解説、身近なところから地球的規模の話まで、いま起きているさまざまな問題を豊富な写真とともに紹介、地球環境を考えるための新しい重要キーワードが簡潔に説明されています。

著者 尾関夢子/尾関周二

書名 こころの病は人生もよう ― 統合失調症・ユング・人類精神史 ―

出版社 本の泉社

出版年 2021年3月22日

概要 この本は二部構成で、本の目的は、精神障がい者への偏見を克服し、共生社会の実現への一助を考えることである。第I部では、こころの病、とりわけ、統合失調症が、長きに渡って誤解と偏見を持たれてきた一因に、症状としての幻覚や妄想によるところが大きいとし、ユング心理学を中心に幻覚や妄想の意味を考察する。また、その解明だけでなく、生き方が楽になるヒント、さらには、人とは何かにも思いを馳せる。第II部では、人類の精神(こころ)の生命史における発生の考察と人類の生活史における精神の変化を概観しつつ、時代との関係において精神(こころ)の病がどのような意味で理解されてきたかを考察する。





- 著者 尾関周二
書名 21世紀の変革思想へ向けて——環境・農・デジタルの視点から
出版者 本の泉社
出版年 2021年4月
概要 21世紀の今、深刻な問題や閉塞感から様々な立場において「変革」が語られている。私は20世紀型の変革思想を脱皮して、21世紀型の変革思想の構築へ向かう必要があると考える。その際に、環境、農、デジタルの視点から主にそれらを含めた問題群を、新たなマルクス理解や現代科学に依拠して変革思想の構築を構想してみた。歴史観の深化を巡って従来の「生産力史観」や「経済成長史観」に対して「物質代謝史観」を提起するとともに新たな変革の主体を提起した。そして、人類史における労働、技術、情報の展開を押さえつつ、現代の「デジタル革命」の功罪を踏まえ、脱資本主義化の条件や国民国家のあり方を巡って将来社会を展望した。